

禅の友

Zen no Tomo

4

April 2026





ご本山だより

大本山永平寺

【報恩授戒会】

大本山永平寺

福井県吉田郡

☎〇七七六―六三一―三二〇二



四月二十三日から二十九日にかけて報恩授戒会が厳修されます。

授戒とは戒を授かるということです。戒とは仏として保つべき正しい行いのことです。

歴代の仏祖は十六の戒を師匠から弟子へ、そのまた弟子へと正しく伝え護ってきました。道元禅師はその戒を正しく授かり日本へと伝えてくださったのです。

その恩に報い、心より頂戴するのがこの授戒会です。全国より多くの在家の方が戒弟（戒を授かるもの）として上山し僧俗ともに一週間永平寺に籠ります。

この期間中、戒弟は説戒師により一つ一つ戒の説明を受け、これまでの自らの行いを反省し、懺悔の拝を繰り返し行い

ます。そして、最終日に不老閣下より正式に戒を授かるのです。

戒を授かるとうなるのでしょうか。それは仏弟子となるのです。その人自身が仏さまになるのです。ただし条件があります。

それは、戒を保つた時に仏さまと同じになるのです。つまり、仏祖が伝え護ってきた正しい行いを同じように行じた時、自らが仏となっているのです。

戒を授かる時に不老閣下よりこう問われます。「よく保つや否や（これから怠ることなく実践し続けていけるか）」。

戒弟は力強くこう答えるのです。

「よく保つ」。



ご本山だより

大本山總持寺

【夏安居制中、花まつり、報恩大授戒会】

大本山總持寺

神奈川県横浜市

☎ 〇四五―五八一―六〇二一



春爛漫の好時節となりました。本山では春の新到和尚の上山が終わり、四月から夏安居制中に入り、首座和尚を中心に夏まで、九旬の集中修行期間となります。そして八日は釈尊降誕会、すなわちお

釈迦さまの御誕生を祝う法要が厳修されます。涅槃会、成道会とあわせて三仏忌と言われ、仏教徒にとっては特に大切な行持となります。

降誕会は禅師さまの御親修で法要が勤まり、天と地を指さすお釈迦さまの誕生仏へ甘茶を注ぎ、供養をいたします。

また、十日から十六日は大本山總持寺報恩大授戒会です。

全国から参集した戒弟と呼ばれる参加者と多くの山内外の僧侶が一体となって修行をいたします。戒弟たちは自らの罪

を懺悔し、戒の何たるかを聴聞し、そしてお釈迦さまから脈々と相承した尊い戒法を戒師さまから授かります。

戒法を授けてくださる石附禅師さまは、どなたにもこやかにお接しになり、合掌なさるそのお姿は私たちの心をいつも和やかにしてくださいます。

この戒法を授かることは、仏道に実直に生きようと誓うことでもあります。これを「菩提心を発す」ともいい、特に總持寺開祖・瑩山禅師さまは「菩提心を生生に発す」と誓われました。

戒を授かる者は一人の仏弟子として生まれ変わり、一つ一つの正しい行いによって一つ一つの心が開き、仏心に目覚めていくのです。

選・坊城俊樹

木枯らしや幼き頃の手の痒み

山口県 稲村 みどり

評 誰しも遠い記憶のあることだろう。木枯らしの吹くような寒いで遊んだ記憶。土や草、あるいは木枯らしの吹く路地で遊ぶ。手にはアカギレが出来、それが治りかけると痒くて仕方ない。古き佳き昭和の頃の子どもたちは皆そんな遊びをしていた。

塞翁が馬とさとりて寝正月

宮城県 金升 富美子

評 「塞翁が馬」とは人の世は予測不能なのだから一喜一憂する事もなく生きて行くということ。そのとおり実践しようとした作者。それが「寝正月」となるから面白い。これぞ俳句の極上の諧謔の味である。寝て食べてそして歌留多をして過ごすのが正統であると。

◆ 金継ぎの景色新し屠蘇祝ふ

埼玉県 新藤 共子

◆ 新春の車窓七島くつきりと

静岡県 堤 千春

◆ 女正月羹べんけいに串魚

秋田県 伊藤 剛司

◆ 空広げ海を広げし初日出

長崎県 崎田 定雄

◆ 雲水の廊下かけ抜く淑気かな

神奈川県 松浦 小夜子

◆ 空稲架を解けばずかずか冬がくる

鳥取県 眞山 博充

◆ 雪晴れやシャベルを上げて挨拶す

茨城県 鈴木 米征

◆ 雲水の列どこまでも冬木立

青森県 菊池 さとよし

◆ 海と空そこに線あり初明り

千葉県 野末 トヨ

◆ ははがりの海を見に行く小春かな

福岡県 嶽本 由美

選者吟

鷗来よ冬の波止場の錨へと

俊樹

作句小見

この句は氷川丸が係留されている横浜の波止場の光景。しかし氷川丸とは見世物であつてもう永遠に出航することはない。だからこそそれを慰撫するために、鷗来たちここに来よと哀願したのである。はたして船としてはどのよう感じたのか。

選・長澤 ちづ

菩提寺の修復作業着々と輝く瓦に新春の風

愛知県 深谷 ハネ子

評 着々と進む菩提寺の修復作業を日々眺めている作者なのだろう。新しい瓦を吹きすぎる新春の風に、未来の平安を願う祈る気持ちが込められるようだ。

占いは大吉なれど福何処鉛の空より雪降りやまず

秋田県 小松 紀子

評 この冬の日本海側の降雪量は災害級のものであった。屋根に堆く積った雪下ろしのため亡くなった人も少なくない。そのような地域の人々の溜息が聞こえてきそうな一首で、おみくじの大吉との取り合わせが妙である。

◆ 暁の空に見えぬる寺の屋根町を抱へる大きなつばさ

岐阜県 後藤 進

◆ 寒行の団扇太鼓の高鳴りて空き家連なる小路を踏みゆく

岩手県 阿部 照子

◆ 死ぬほどに眠りたかつた若き日よ今覚め二度寝出来る幸せ

山口県 濱田 道子

◆ 古木ゆえに皮がかたいと言ひ添えて舅の生家よりみかんが届く

静岡県 杉原 民子

◆ 三年を休みし畑を耕せば噛み締めるごとトラクターゆく

鳥取県 眞山 博允

◆ 読みかけの文庫本を途中で閉じると娘は逝きけりさつさと逝きけり

青森県 菊池 さとよし

◆ 正月の飾りを持つてふるさとへ誰も居らねどせめて新年

京都府 三浦 大示

◆ うら枯るる河原に生ふる野茨の秀つ枝萌黄の芽をふきぬはや

鳥取県 徳本 義則

◆ 枯落葉の下に野草らは眠りぬむ春まで除けずに掛けて置かむよ

茨城県 田口 昭子

◆ ちよつとした隙間に挟みし紙ありて妹よりの品の添え書き

福島県 中村 英治

選者誌

楽しみは庭の落ち葉を踏みつけて前世のような

香を散らすとき

ちづ

作歌小見

寒中に団扇太鼓を鳴らしながら無病息災を祈つて夜道を歩く寒行を詠う阿部さんの一首、その道筋も空き家が増えて過疎化が進んでいるらしく寒さが身に沁みるようです。徳本さんの一首では春の微かな芽吹きを捉えていてほっとします。